

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	江戸の社会と数学		
英文授業科目名	History of Traditional Japanese Mathematics in Social Context		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	佐藤 賢一		
居室	東1-713		

公開E-Mail	授業関連Webページ
k-sato@bunka.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
近代以前の日本における数学（和算）の実態とそれが社会的に果たした役割を探る。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

<b>【教科書等】</b>
教科書：佐藤賢一『そして数は遙かな海へ…… 東アジアの数理科学史』（北樹出版、2005年）
参考書：授業時に指示する。

【授業内容とその進め方】

演習形式で進める。以下のような内容を取り混ぜて進めていく。

- \* 日本の数学の概観
- \* そろばんによる計算の仕方
- \* 測量術と数学者
- \* 江戸期の天文学と数学者
- \* 江戸時代の人々が解いた数学の問題について
- \* 数学者の社会的地位について

出席者は積極的に授業に参加することを求める。

登録希望者が多数の場合は、レポート等を課すことで受講者を決定する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出欠(8割以上の出席)、レポート提出(1回)を「可」の要件とします。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は講義時に受け付ける。

【学生へのメッセージ】

江戸時代の日本語で書かれた数学の本が一体どのようなものであったのか。

それを読み解く過程で江戸という時代についても理解を深められるような内容にしたいと思っています。

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

### 【その他】

講義用教材、資料準備の都合上、受講者数を最大30名程度に制限いたします。受講許可要件は以下のとおりとします。

- (1)このシラバスをあらかじめ読んでおくこと。
- (2)講義初日にA4レポート用紙3枚分のレポートを準備して持参すること。

レポート課題は以下のものです。

「江戸時代の数学、または天文学、または測量術について、今諸君が持っているイメージをまとめなさい。」